

X 研 究 普 及



A 試験研究

林業研究センター

1. 本場の位置 郡山市安積町成田字西島坂 1

2. 用地面積

種 目	面 積
宅 地	34,305 m ²
畑	79,047
山林	238,717
その他	14,433
計	366,502

3. 建 物

種 目	面 積
本 館	1,270 m ²
研 修 本 館	381
資 料 展 示 館	390
研 修 寮	418
研 修 寮	154
ポ イ ラ ー 室	30
ポ ン プ 室	14
ガ ス ポ ン ベ 室	8
木 材 加 工 室	171
木 材 試 験 棟	400
木 材 加 工 棟	768
生 物 工 学 研 究 棟	155
機 械 庫	104
車 庫	33
作 業 員 舎	65
緑 化 木 原 種 園 作 業 舎	55
温 室	100
き の こ 発 生 舎	57
昆 虫 飼 育 舎	26
堆 肥 舎	68
ほ 場 舎	37
特 殊 林 産 実 習 舎	120
種 菌 培 養 室	168
種 菌 培 養 室 倉 庫	21
倉 庫	49
ミ ス ト ハ ウ ス	81
処 理 棟	48
種 子 貯 蔵 庫	36

(資料) 平成16年度林業研究センター報告

4. 各試験地状況

(1) 塙試験地 東白川郡塙町大字台宿字北原

用 地 (県 有 地)

種 目	面 積
畑	9,236 m ²
山林	3,659

建 物

種 目	面 積
管 理 舎	19 m ²
堆 肥 舎	29

(2) 多田野試験林 (県 有 地)

郡山市逢瀬町多田野 90,137 m²

(3) 分収試験林

川 内 村 122.80 ha

塙 町 30.48

柳 津 町 4.50

下 郷 町 2.00

5. 採種穂園

新 地 圃 場 12.02 ha

大 信 圃 場 33.71

熱 塩 圃 場 2.86

会 津 圃 場 18.25

林 研 セ ン タ ー 4.50

川 内 圃 場 7.15

平成16年度 試験研究課題一覧表

重要課題	課題区分	小課題	費用区分 研究期間	内 容
1. 交雑・選抜による育種	1. 優良品種の選抜・創出および育種技術の確立	1. 花粉の少ないスギの育種 2. マツノザイセンチュウ抵抗性育種	県 単 H13～H17年 県 単 H13～H17年	・花粉が少なく本県に適したスギ品種の創出 ・交雑による優れた抵抗性マツの創出
	2. 食用きのこの育種	1. シイタケ優良品種選抜 2. 食品機能性の高いナメコ品種の育種 3. 野生きのこ優良品種選抜	県 単 H13～H17年 県 単 H16～H20年 国 庫 H16～H20年	・有用な形質を持つ品種の選抜 ・差別化を図るため食品機能性の高い新品種の作出 ・ムキタケ、ブナハリタケ等の優良品種の選抜
2. 地域社会ニーズに合致した高品質生産技術	1. 食用きのこ生産技術の開発	1. シイタケ菌床栽培技術 2. ナメコ有効成分を増強する栽培技術 3. ホンシメジ人工栽培の実用化試験 4. 野生きのこ人工栽培技術の確立	県 単 H13～H17年 県 単 H16～H20年 国 庫 H16～H20年 国 庫 H15～H19年	・菌床栽培の安定化とコストダウン技術の確立 ・ナメコ有効成分の特定と評価ならびに有効成分を増強する栽培法の開発 ・ホンシメジ栽培の安定生産技術の実用化 ・ツチグリ、サケツバタケ等の人工栽培技術の確立
3. 生産物の加工利用・品質保持技術	1. 県産材の材質特性把握	1. 県産スギ平角材の強度性能	県 単 H16～H17年	・県産スギ平角の強度性能評価と構造材としての指標作成
	2. 広葉樹中小径材の加工利用技術の開発	1. 低位利用広葉樹材の高付加価値化技術の開発	県 単 H12～H16年	・小径広葉樹材、未利用広葉樹材の新たな用途と製品の開発
4. 環境負荷軽減技術	1. 県産針葉樹材の高付加価値化技術の開発	1. 環境に優しい木材製品の利用開発 2. 支柱、杭木等の防汚処理技術の開発	県 単 H12～H16年 県 単 H16～H18年	・エコマテリアルとしての内装材やエクステリアウッドの利用開発 ・効率的な防汚処理技術の検討と各種性能の優れた木製支柱、土木用資材の開発
5. 地域有機物資源活用技術	1. 木質バイオマス利用技術	1. 木質バイオマス循環利用モデルの開発 2. 環境負荷の少ない循環型林内マルチング技術	国 庫 H15～H19年 国 庫 H15～H19年	・本県における木質バイオマス賦存量把握に基づいた利用シミュレーションモデルの開発 ・効果的なマルチング方法と植生への影響の解明

重要課題	課題区分	小課題	費用区分 研究期間	内 容
6．緑化保 全・森林管 理技術	1．公益的機能増進を目的とした多様な森林造成・管理技術の開発	1．森林構成と土砂流出防止効果 2．海岸マツ林の施業体系と塩分補足効果 3．伐採適齢人工林の混交林化	県 単 H16～H25年 県 単 H15～H19年 県 単 H16～H25年	・森林構成や地況と治山ダムの土砂堆積の関係把握 ・海岸林の密度管理指標の確定と塩分補足の解明 ・再造林を必要としない混交林化への誘導手法の開発
	2．山腹等緑化施工地管理技術の開発	1．木本類による法面緑化	県 単 H15～H19年	・林道法面緑化の最適施工時期と最適種子配合割合の決定
	3．病害防除技術の確立	1．ヒノキ漏脂病の防除 2．ナラ類の集団枯損に関する防除技術の開発	県 単 H13～H17年 県 単 H15～H19年	・ヒノキ漏脂病発生防止技術の確立 ・既存のカシノナガクイムシ被害低減方法の改良
7．地域特産品の開発と安定生産技術	1．特用樹生産技術の確立	1．連作地におけるキリ適性管理技術の開発	県 単 H16～H20年	・連作地においてキリを健全に生育させるための土壌管理法の確立
8．野生資源利用技術	1．野生資源生産技術の確立	1．有用野生資源の探索	県 単 H13～H17年	・本県産山菜・きのこ類の食品機能性の解明

関連事業

事業名	費用区分 研究期間	内 容
1．酸性雨等森林衰退モニタリング事業（森林吸収源計測・活用体制整備強化事業）	委 託 H12～H16年	・酸性雨等による森林衰退減少の状況把握と原因の解明
2．花粉生産量予測システム普及事業	委 託 H13～H17年	・スギ花粉症対策のための花粉生産量の予測に関する調査方法の確立と普及
3．森林施業の温室効果ガス吸収排出影響評価（メタン及び亜酸化窒素の吸収・排出量と施業影響の評価）	委 託 H14～H16年	・森林のメタン及び亜酸化窒素の吸収排出量の測定手法を開発する。

B 普及指導

1 林業研究グループ等の現状

平成16年4月1日現在

普及指導区	地域		目的グループ								計	
	グループ		育林		特用林産		育苗		その他		グループ数	会員数
	グループ数	会員数	グループ数	会員数	グループ数	会員数	グループ数	会員数	グループ数	会員数		
北	2	95	-	-	1	28	-	-	1	15	4	138
中	7	137	1	23	1	21	-	-	-	-	9	181
南	3	42	7	94	2	13	-	-	-	-	12	149
津	3	43	2	28	1	10	-	-	-	-	6	81
会	2	70	-	-	1	96	-	-	-	-	3	166
南	1	22	-	-	2	19	-	-	-	-	3	41
原	1	2	-	-	-	-	-	-	1	10	2	12
富	3	42	3	39	1	6	1	21	-	-	8	108
いわ	3	42	3	39	1	6	1	21	-	-	8	108
計	22	453	13	184	9	193	1	21	2	25	47	876

(資料) 森林林業領域担い手緑化グループ

2 林業後継者育成関係研修実績

年度	研修名	林業教室等							林業青年のバス	中央研修等への派遣					備考		
		一般コース	専門コース	婦人コース	基礎講座	実践講座	基幹労働者※1	基幹林業者※2		北海道・東北ブロック林業グループコンクール※3	全国林業グループコンクール※4	全国林業グループリーダー研修会※5	全国林業女性学習の集い	指導林家会全国研修会			
元年度以前		805	852	184	137	-	-	15	35	877	171	95	19	29	-	4	1 平成2年度までは「林業技能作業士」研修として、平成3年度～4年度は「林業作業士」研修として、平成5年度～6年度は「林業新任技術者」研修として実施。 2 昭和29年度～49年度は「青少年実績発表大会」として実施。 3 平成6年度までは、「東北・北海道ブロック林業グループシンポジウム」として実施。昭和60年度・平成4年度及び平成11年度は福島県開催。 4 平成6年度までは「林業グループ全国シンポジウム」として実施。 5 平成3年度～5年度は「全国林業婦人グループリーダー研修会」参加者各1名を含む。
2		26	14	15	12	-	-	5	-	47	26	2	2	1	-	1	
3		-	14	10	12	-	-	9	-	33	21	3	2	2	2	1	
4		-	13	15	10	-	-	5	-	31	-	44	3	1	2	1	
5		-	20	13	12	-	-	6	-	25	21	1	2	2	2	1	
6		-	18	14	12	-	-	7	-	37	25	2	2	-	2	1	
7		-	-	-	-	22	20	7	-	39	20	5	6	1	2	1	
8		-	-	-	-	24	15	7	-	34	18	3	2	1	2	1	
9		-	-	-	-	24	12	7	-	68	18	3	2	1	2	1	
10		-	-	-	-	24	12	8	-	50	20	7	3	1	2	1	
11		-	-	-	-	17	15	6	-	53	20	12	6	1	4	2	
12		-	-	-	-	26	19	6	-	61	20	7	6	1	2	1	
13		-	-	-	-	28	15	6	-	69	-	8	6	1	2	1	
14		-	-	-	-	35	16	7	-	-	-	7	2	1	2	1	
15		-	-	-	-	34	11	7	-	64	-	4	2	-	1	1	
16		-	-	-	-	30	12	4	-	66	-	2	1	-	2	-	
合計		831	931	251	195	264	147	112	35	1,554	380	205	66	43	27	19	

昭和56年度以前に実施した研修

農山村青少年林業講習会 (S31～S38) 232名
 愛林青年隊 (S34～S37) 101名
 山村中堅青年交流 (S36～S43) 94名

林業親子学級 (S45～S49) 259名
 山村青年林業研究グループ (S45～S56) 486名

(資料) 森林林業領域担い手緑化グループ